

第7回大島町地域公共交通活性化協議会

日時：令和6年12月20日（金）13:30～14:45

議事次第

1 開会

2 議事

（1）令和6年度の取り組み内容の中間報告について

（2）令和7年度以降の取り組み内容（素案）について

3 その他

4 閉会

令和6年度の取り組み内容の 中間報告について

大島町地域公共交通活性化協議会

令和6年12月20日(金)

令和6年度の主な実施事業

施策	事業	具体の事業	中間報告
施策1	事業1-1 通学需要に合わせた運行ダイヤ・ルート等の再編	(1)登校時間帯の大島高校直通便の維持	・運行継続 ・フィーダー系統補助申請
		(2)下校時間帯の波浮港ライン直通便の新設	・ ダイヤ調整し運行 ⇒大島高校対象にアンケート実施
	事業1-2 バス・タクシー・スクールバス・移動送迎サービス等の複数の交通手段の連携による需要に応じた交通ネットワークの確保	(1)大島公園ライン・波浮港ライン沿線の移動手段確保に向けた段階的な路線再編	・部会において交通事業者間で協議 ・関東運輸局に法制度手続きを確認
		(2)元町港・岡田港間の運行便の維持	・運行継続 ・フィーダー系統補助申請
		(3)時季に応じた交通事業者の連携・協力によるネットワーク確保	・部会において交通事業者間で協議
施策2	事業2-1 まちづくりと交通ネットワークの連携強化	(1)バス停から離れた施設や地区への移動手段確保(超小型パーソナルモビリティ等)	-
		(2)交通ネットワークに対応した施設配置等の検討	-
施策3	事業3-1 生活ニーズに対応した移動手段の提供	(1)お買い物バスの運行	-
	事業3-2 主要な観光施設を周遊する観光モビリティの導入	(1)サンセットパームラインでの観光モビリティ導入	・事務局内で検討 ・観光協会にて電動キックボードを導入
	事業3-3 コミュニティサイクルや電動キックボードの活用検討	(1)コミュニティサイクルや電動キックボードの活用検討	・観光協会にて電動キックボードを導入

令和6年度の主な実施事業

施策	事業	具体の事業	中間報告
施策4	事業4-1 福祉や医療分野で実施している移動サービスの維持・確保・改善	(1)福祉や医療分野で実施している移動サービスの維持・確保・改善	・庁内で調整
	事業4-2 支え合い交通の持続可能な体制の確保に向けた自家用有償運送等の検討	(1)福祉有償運送や自家用有償旅客運送の実施	・社会福祉協議会と意見交換
	事業4-3 公共交通等の利用を促すチケット等の配布	(1)町民パスの導入	・事務局で検討
施策5	事業5-1 キャッシュレス対応サービスの導入・推進	(1)キャッシュレス対応サービスの導入・推進	・継続実施
	事業5-2 経路検索サービスでの情報提供サービスの導入・推進	(1)GTFS-JPの導入・推進	・継続実施
	事業5-3 バリアフリーやユニバーサルデザインに対応した設備の導入・推進	(1)バリアフリーやユニバーサルデザインに対応した設備の導入・推進	・部会において交通事業者と意見交換
施策6	事業6-1 公共交通案内の充実	(1)来島者向けの情報発信媒体の作成や情報提供	-
	事業6-2 バスの乗り方教室の実施	(1)学校等での乗り方教室の実施	・福祉まつりにあわせてバスの乗り方教室を実施
		(2)イベントでのバスの展示	・福祉まつりでバスを展示
	事業6-3 公共交通の利用促進につながる取組みの実施	(1)住民参画の取組みの検討・実施	・バスの乗り方手帳を配布
		(2)公共交通の利用促進につながるイベントの実施	・福祉まつりとの連携
	事業6-4 エコツーリズム等の推進	(1)エコツーリズムの企画・推進	-

下校時間帯の 波浮港ライン直通便の新設

取組みの概要

- 大島高校の下校時間帯に合わせて、大島高校から波浮港・大島陸上競技場まで乗り換えなしで移動できる直通便を運行
- 直通便の運行と合わせて、利用しやすい時間帯等を把握するため、令和6年11月にアンケートを実施

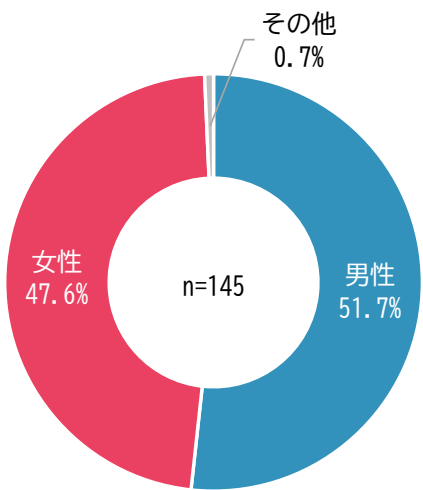
アンケートの概要

アンケート対象	大島高校の生徒及び教職員
アンケート方法	紙調査票を学校で配布・回収
アンケート内容	●基本属性 ・性別 ・年齢 ・居住地 ・普段の登下校・通勤手段 ・放課後の過ごし方 ●路線バス利用の困りごと ●下校時に利用しやすいバスの出発時間 ●大島高校→波浮港直通便の運行 ・運行の認知度 ・取組みの継続に対する意向 ・利用しやすい終バスの時間帯と理由
回収状況	生徒：108人 教職員：37人

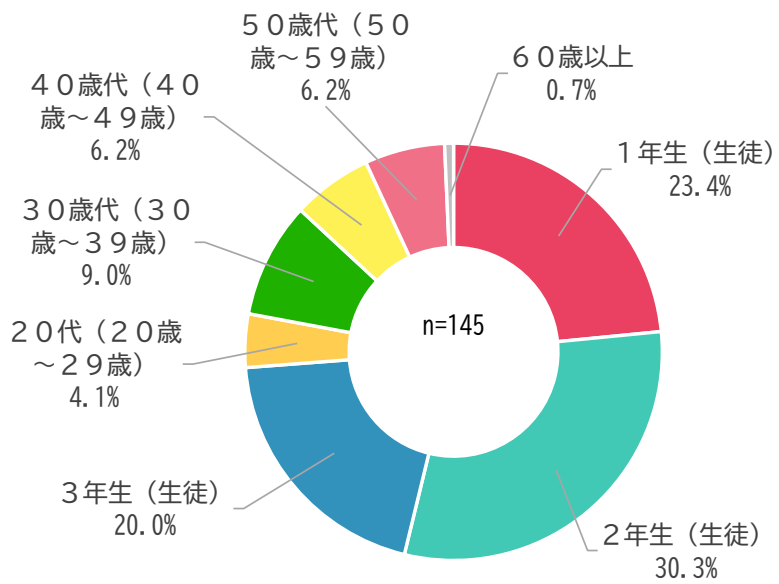
《参考》回答者の属性

Q1 お住いなどをおしえてください。

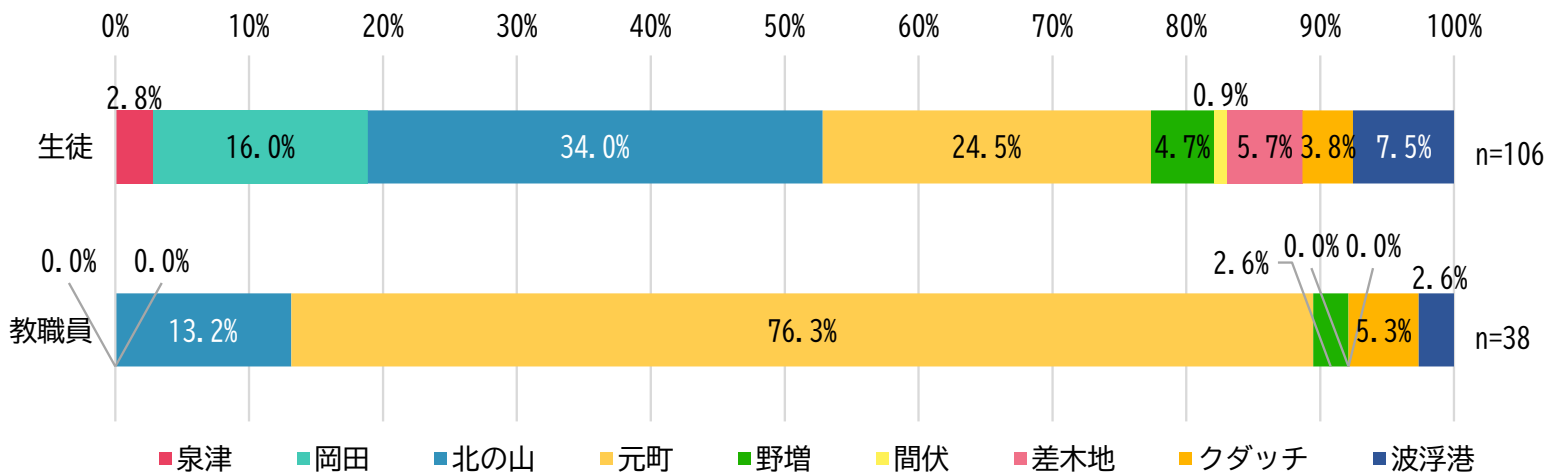
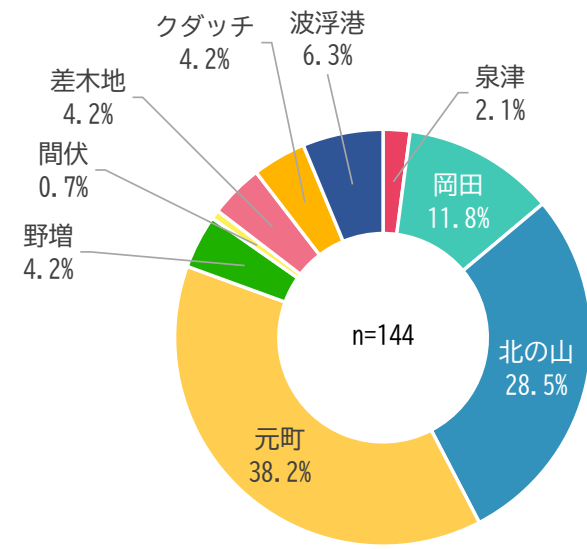
1. 性別



2. 年齢

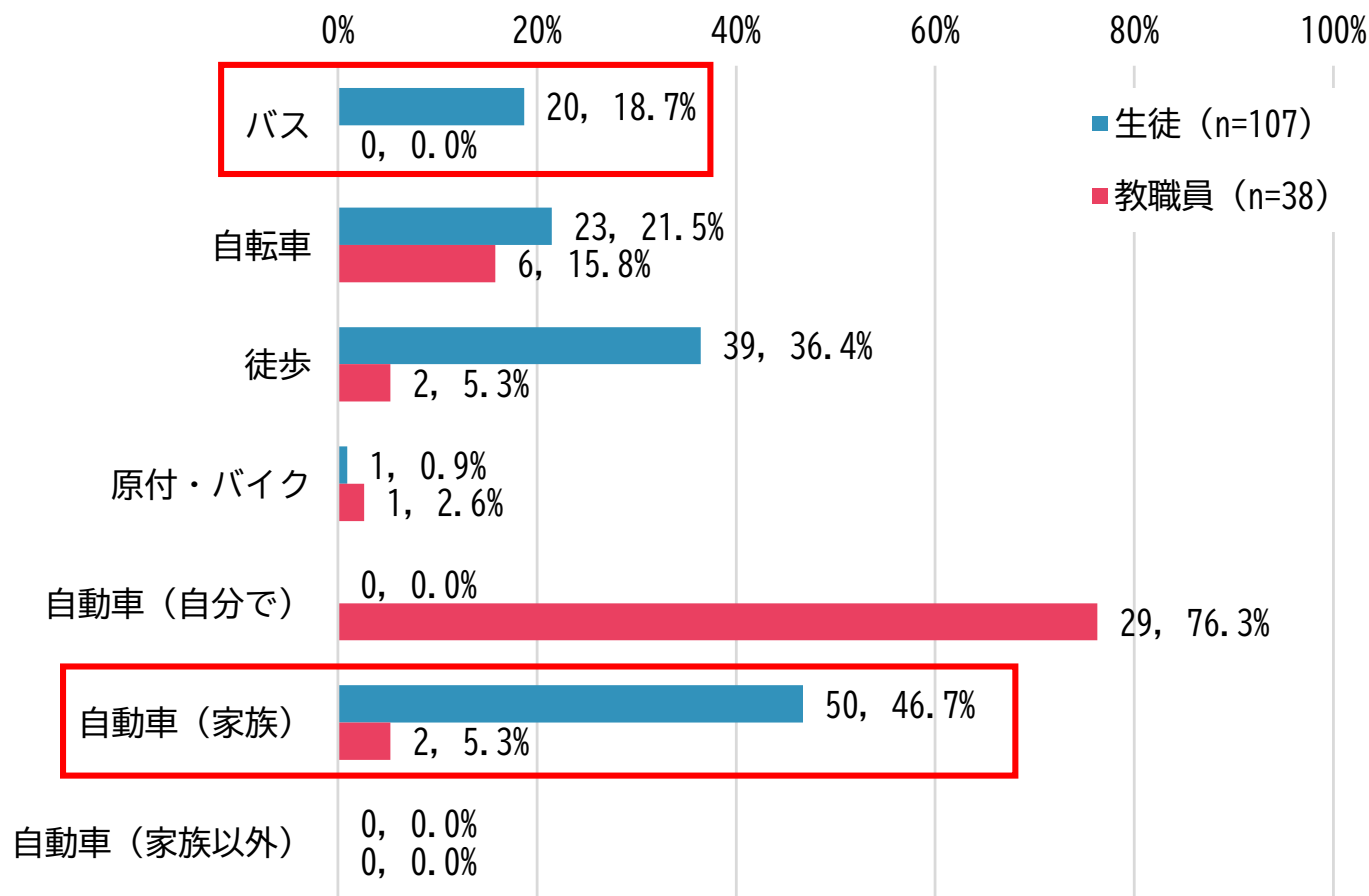


3. お住いの地域



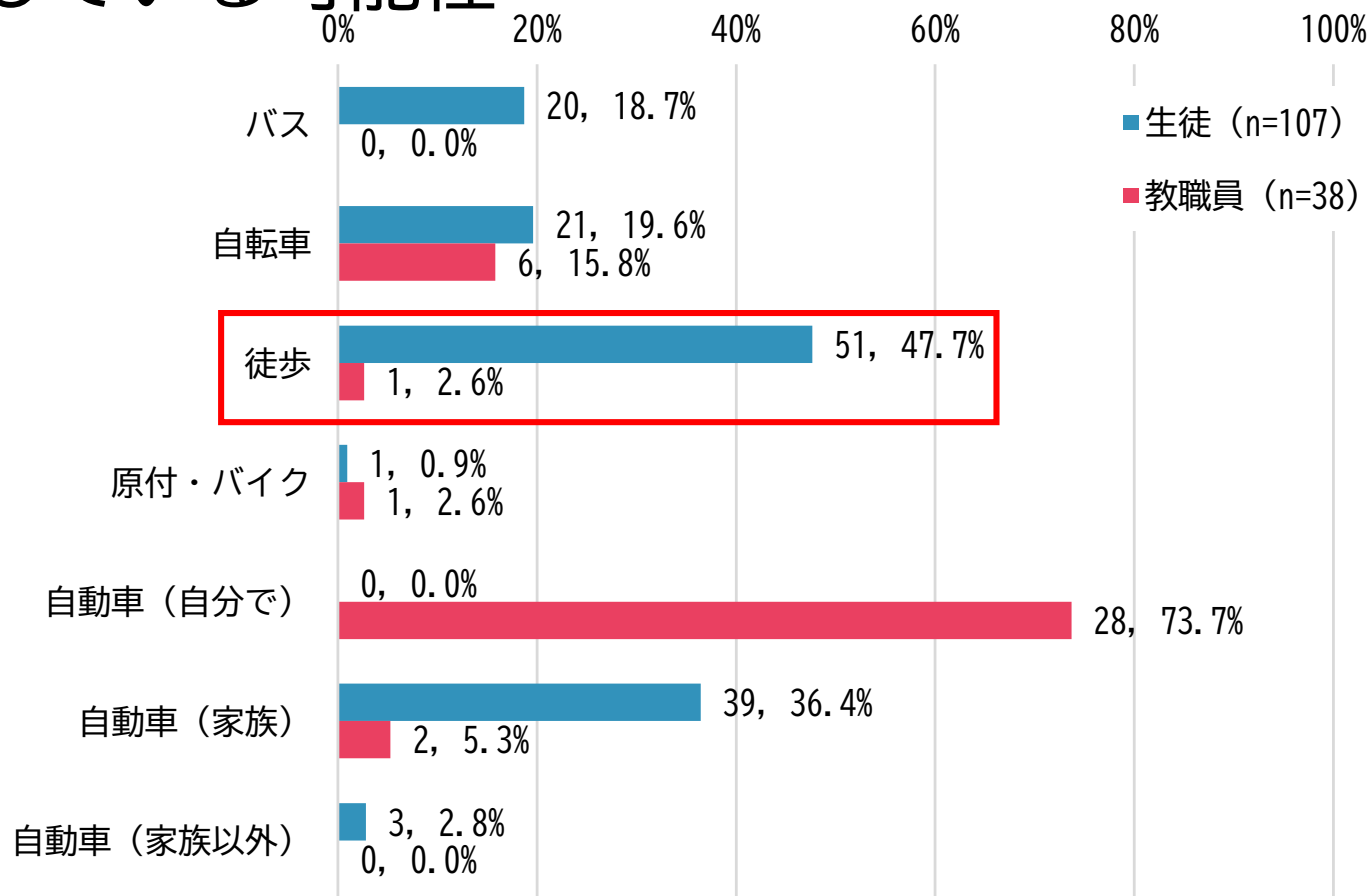
(1) 普段の登校・通勤手段について

- 生徒のうち約2割はバスで通学
- 生徒のうち約5割は家族の送迎で通学



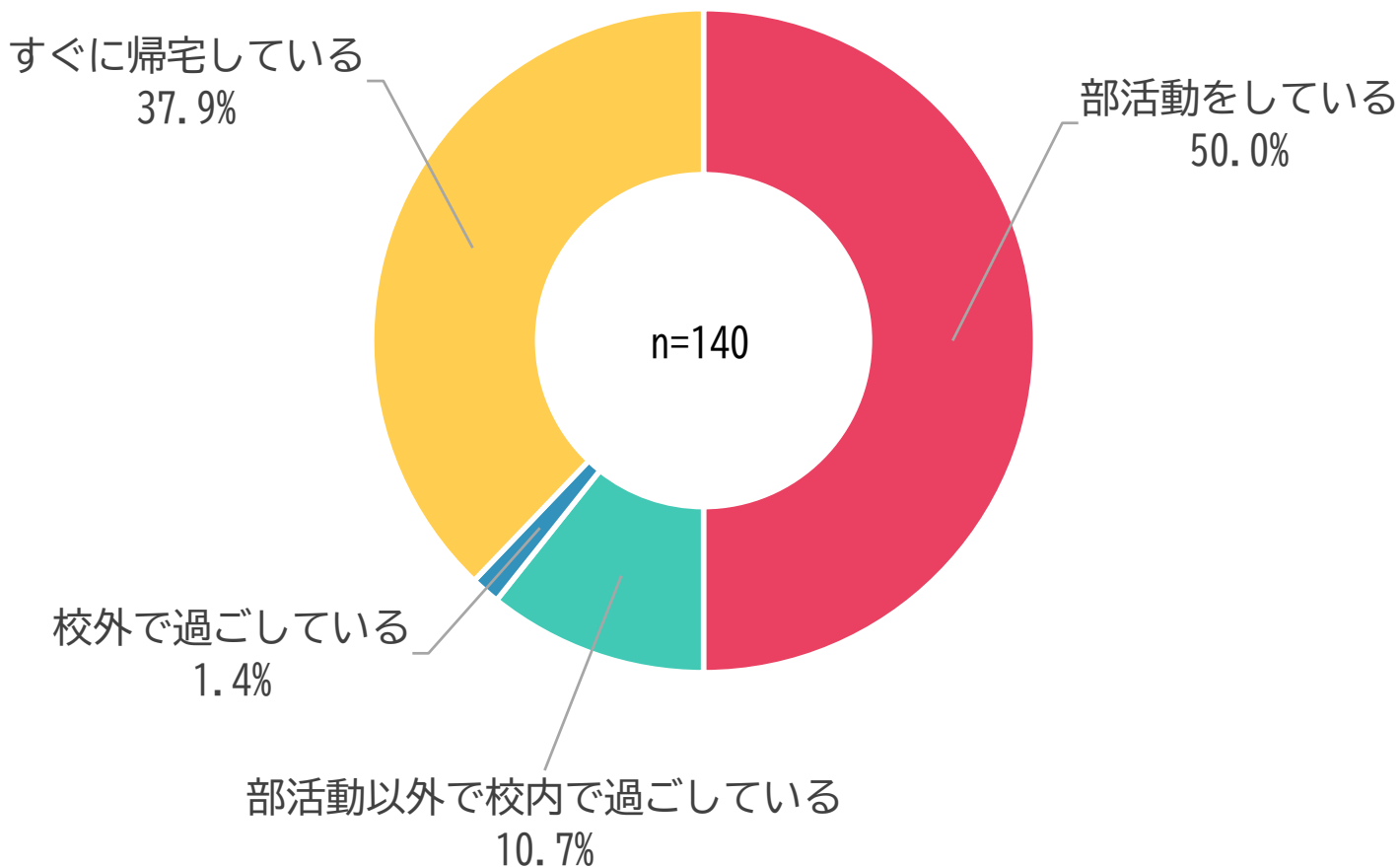
(2) 普段の下校・退勤手段について

- 下校・退勤では、徒歩での占める割合が高くなる傾向(生徒のうち約5割)
→時間的余裕があるため、家族に送迎を依頼せずに帰宅している可能性



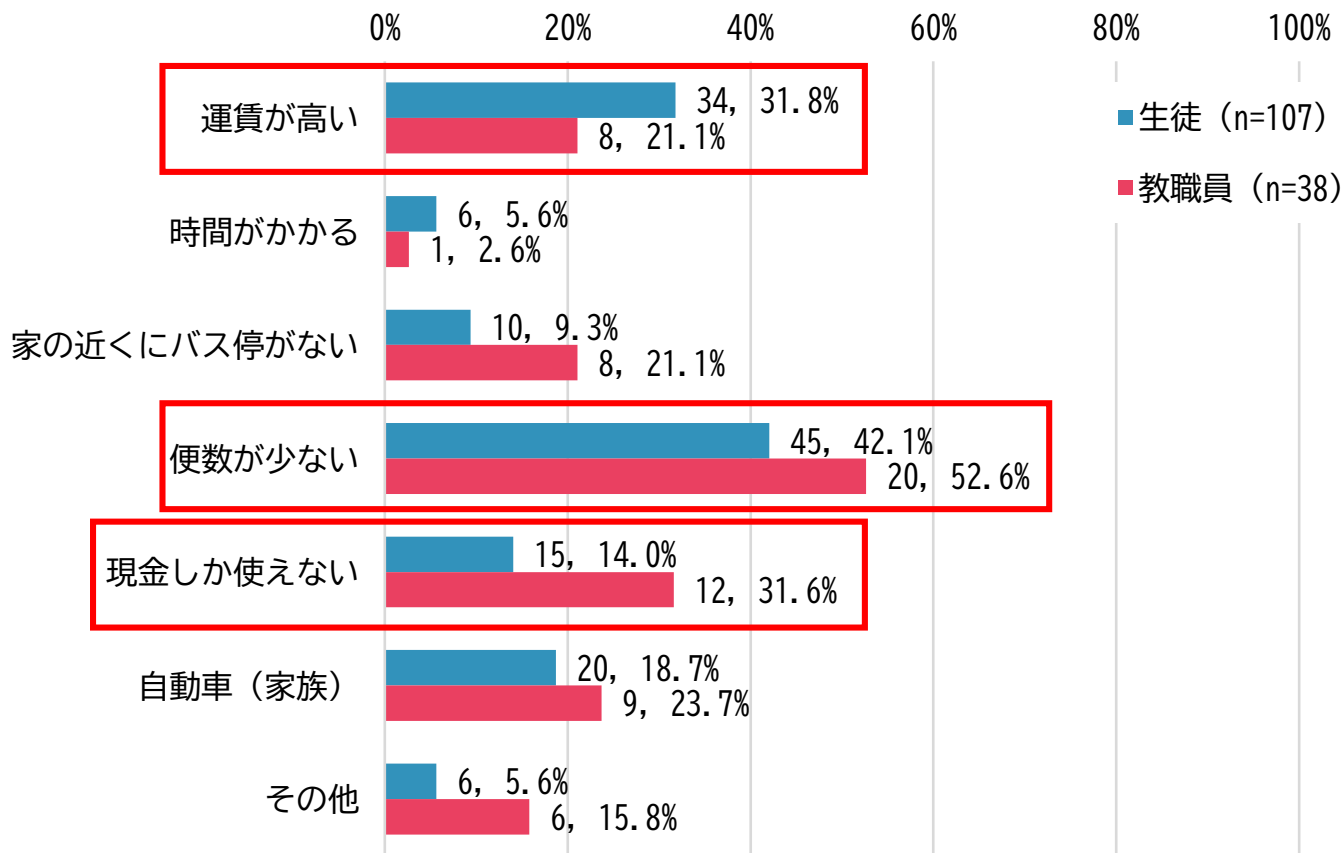
(3) 放課後の過ごし方について

- ・約6割が部活動を含む校内での活動で、学校内に滞在



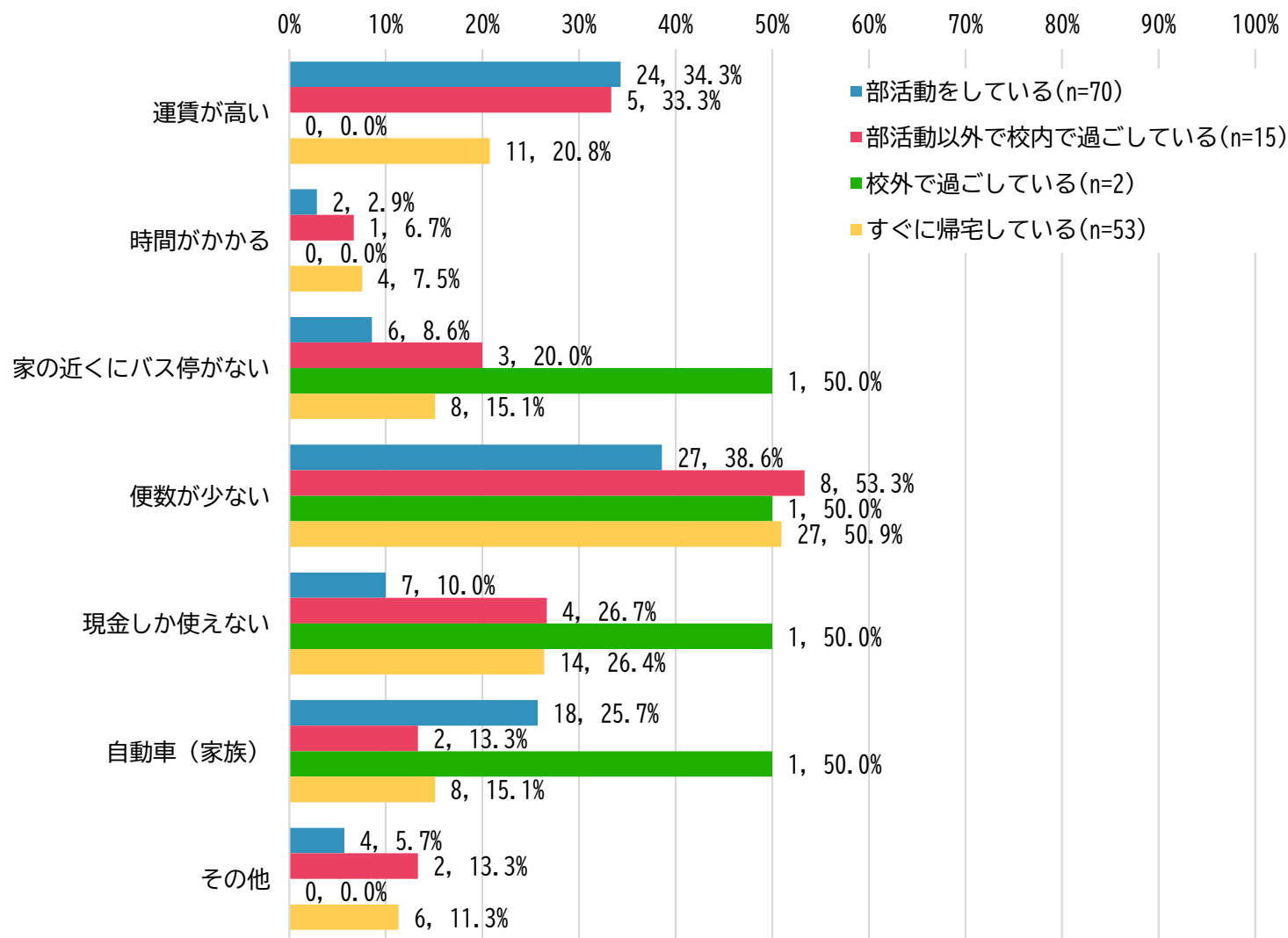
(4) 登下校や通勤・退勤で路線バスを利用する際の困りごとについて

- ・生徒・教職員ともに便数の少なさが困りごとの1位
- ・生徒では運賃の高さが2位
- ・教職員では現金しか使えないことが2位
→PayPay利用可の周知不足と推察



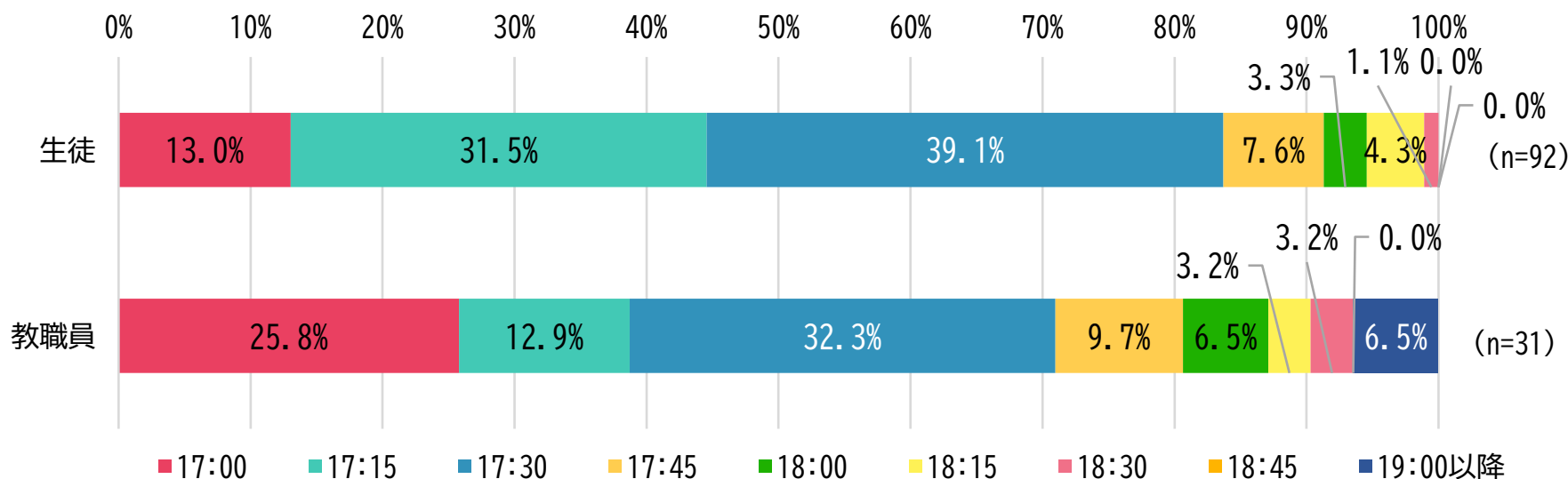
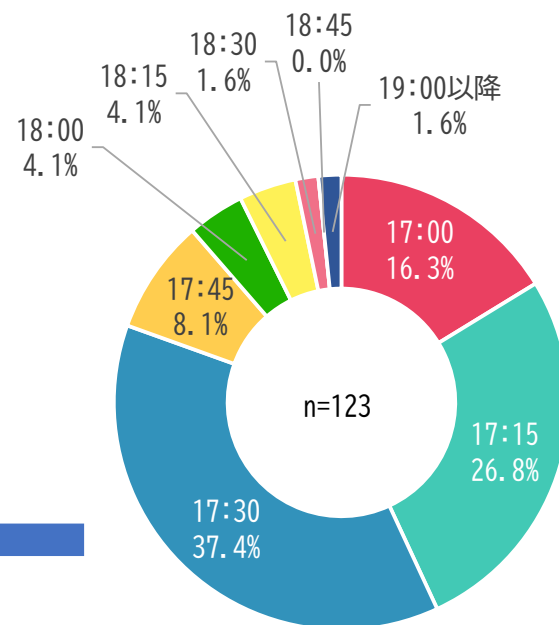
(4) 登下校や通勤・退勤で路線バスを利用する際の困りごとについて

・便数の少なさは放課後の過ごし方に関わらず1位



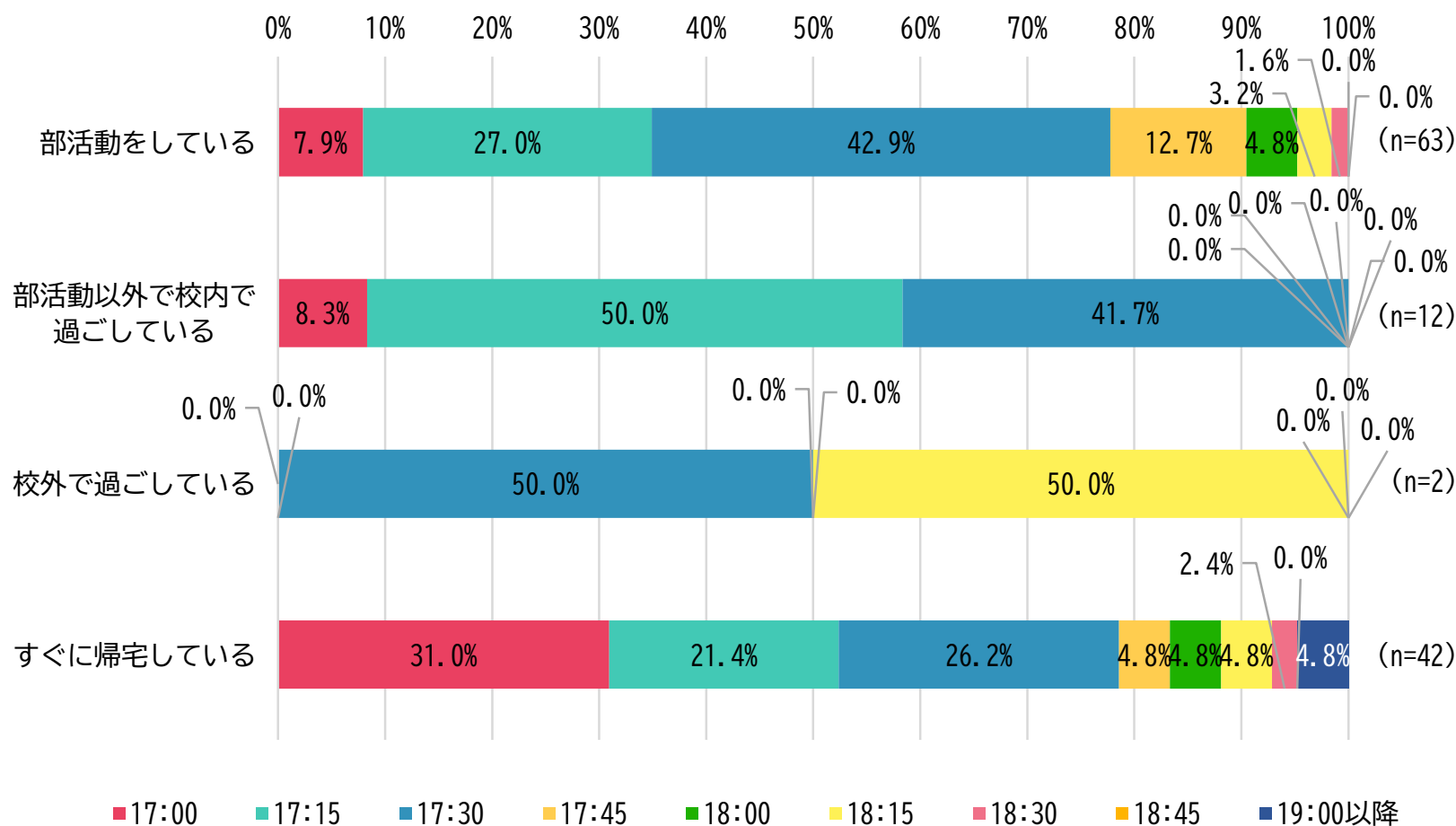
(5) 下校時に利用しやすいバスの出発時間

- 生徒は17:15～17:30が下校に利用しやすい時間帯
 - 教職員は17:30もしくは17:00
- 現状の17:15発は概ねニーズに合致、15分の後ろ倒しの可能性を検討



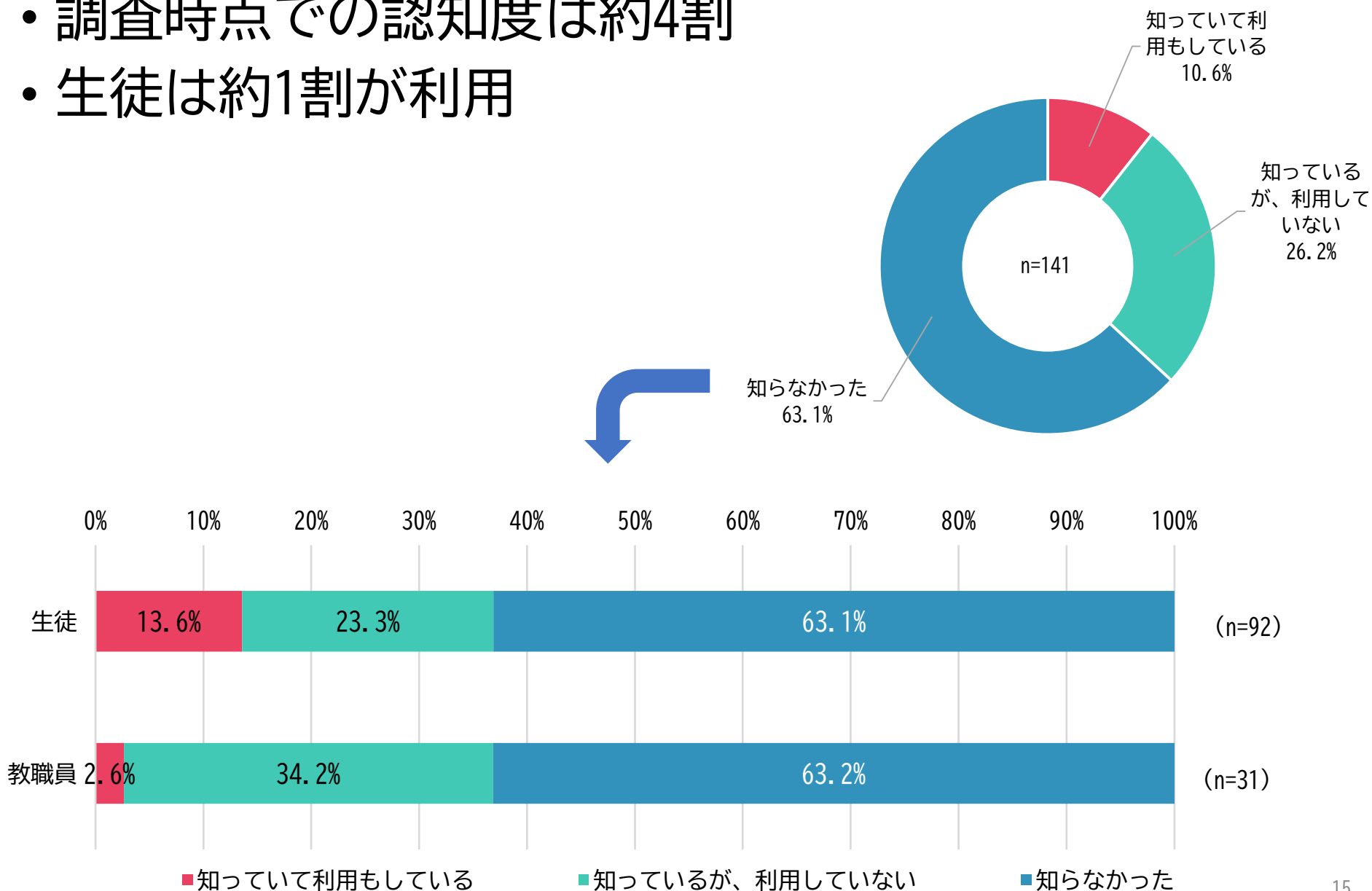
(5) 下校時に利用しやすいバスの出発時間

- 部活動している場合は17：30、部活動以外の場合は17：15が多い傾向
→部活動の片付けの有無等に起因すると推察



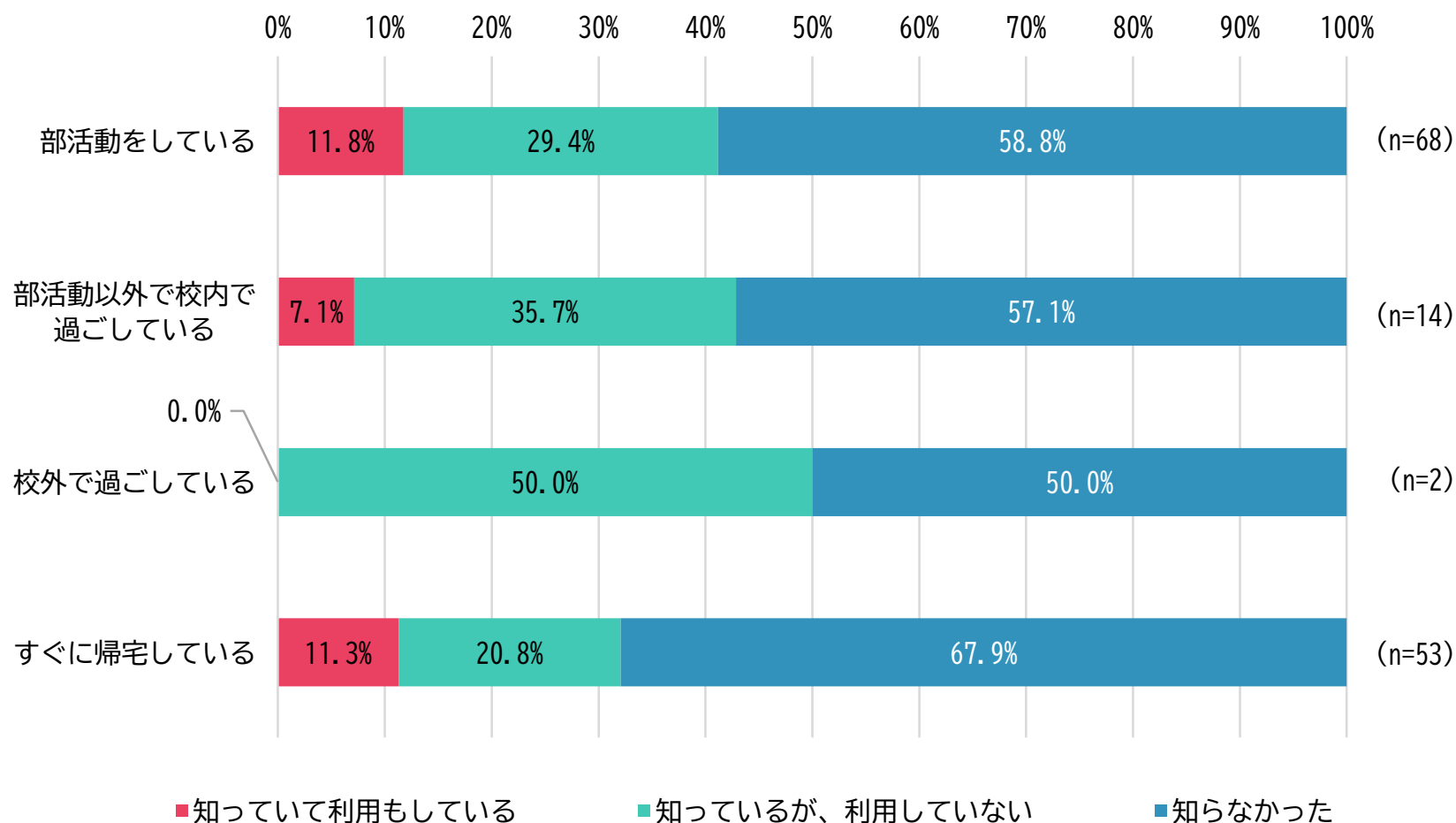
(6) 波浮港線の直通バスの認知度

- 調査時点での認知度は約4割
- 生徒は約1割が利用



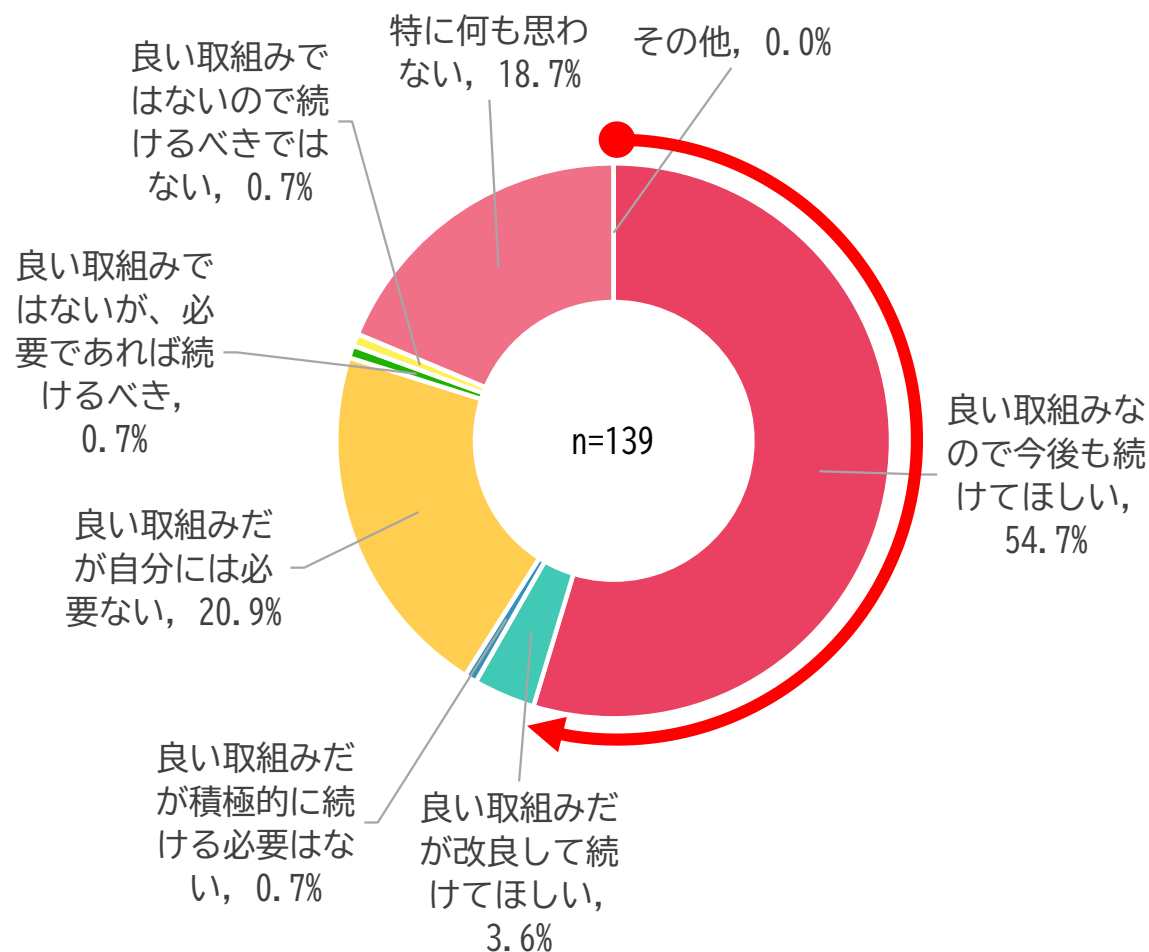
(7) 波浮港線の直通バスの認知度

- 放課後を校内で過ごしている場合は認知度が高い傾向



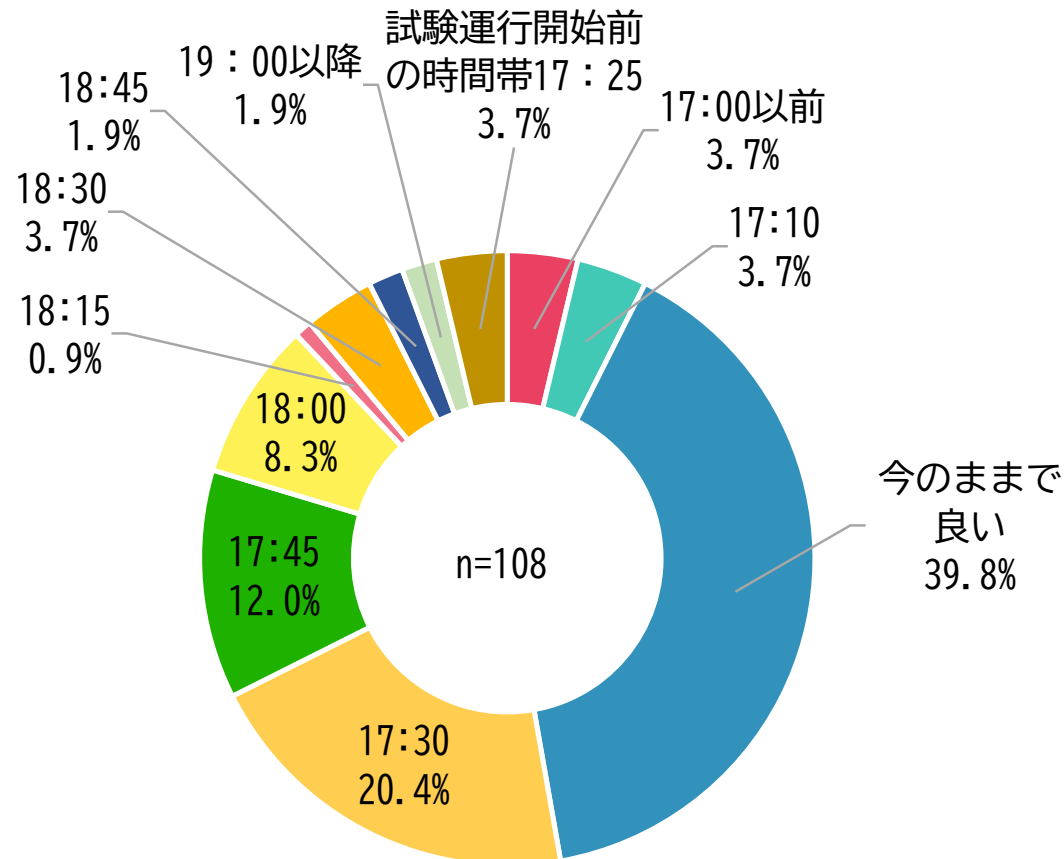
(8) 波浮港線の直通バスの取組みの継続に対する意向について

- 約5割は取組みを評価の上継続を希望



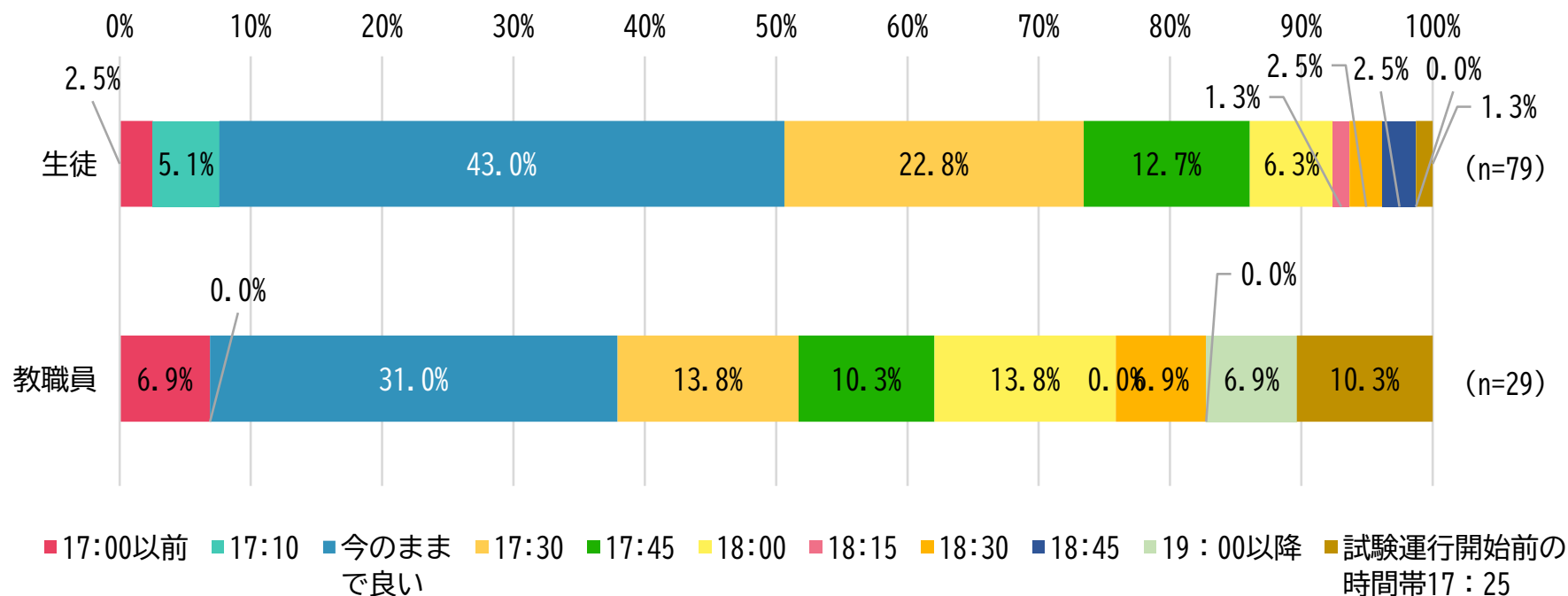
(9) 元町港の終バスの時間帯について

- 約4割が今のまま(17:15発)で良いと回答、次いで17:30
→主な利用者層である高校生に絞り込めば現状の運行ダイヤでおおむね問題なし

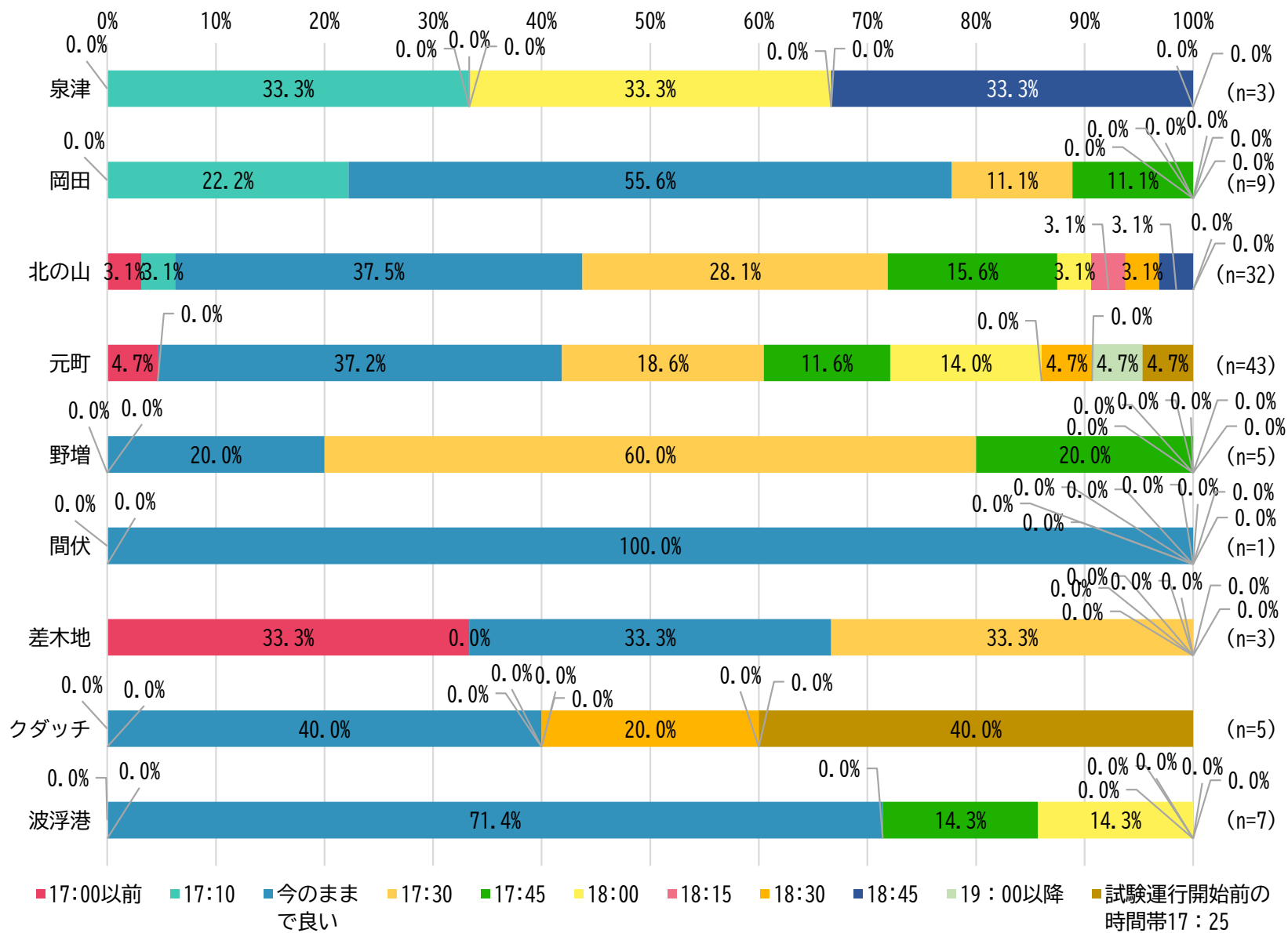


(10) 元町港の終バスの時間帯について

- 教職員からは今のままよりも遅い時間帯の意向が多い

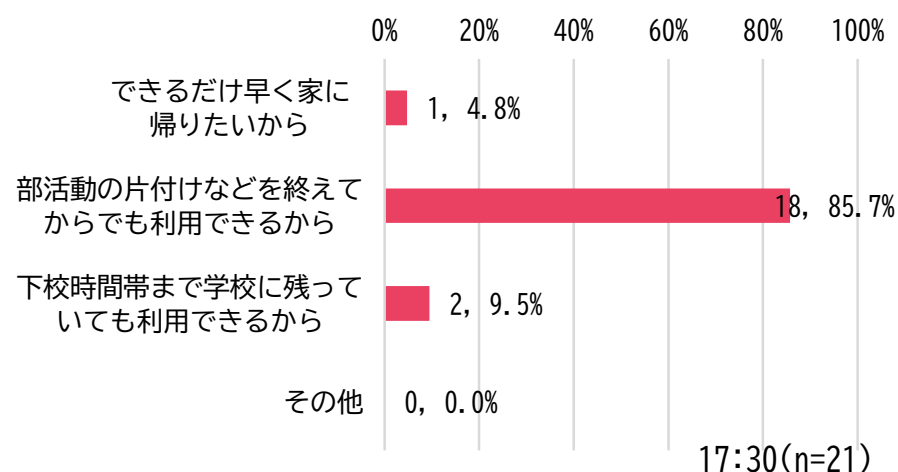
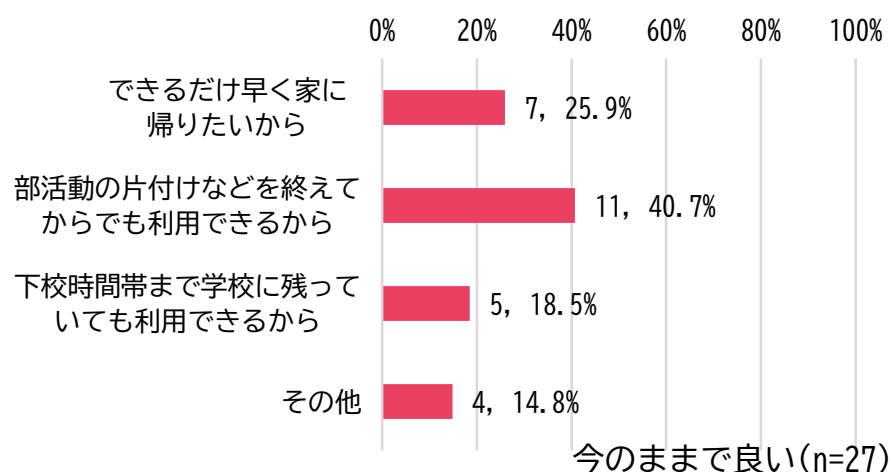
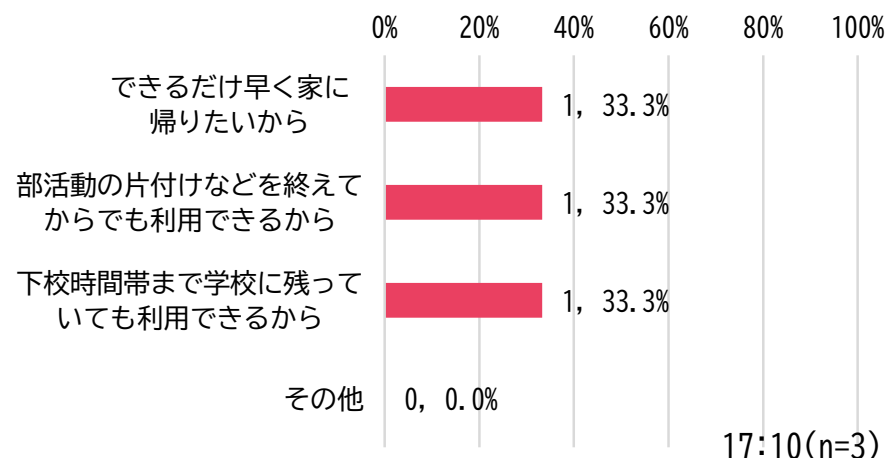
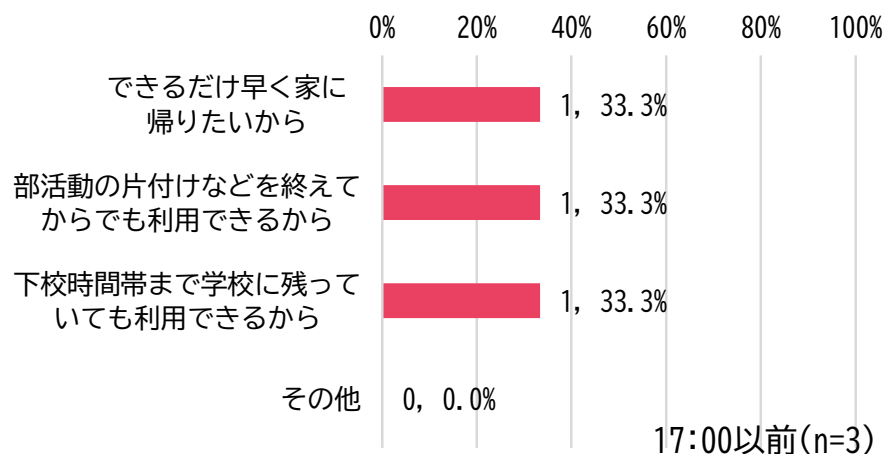


《参考》元町港の終バスの時間帯について（居住地別）

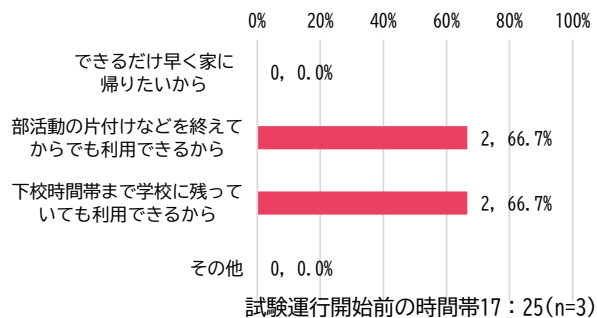
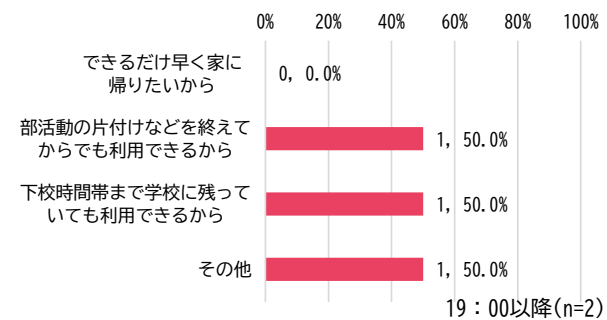
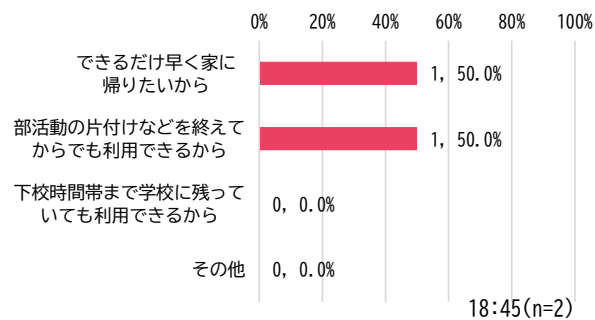
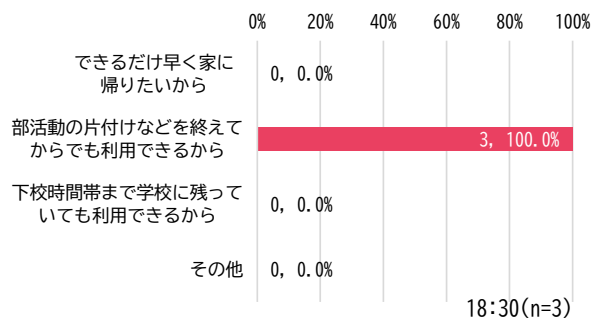
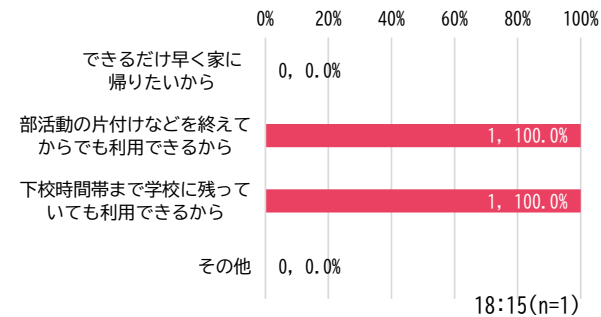
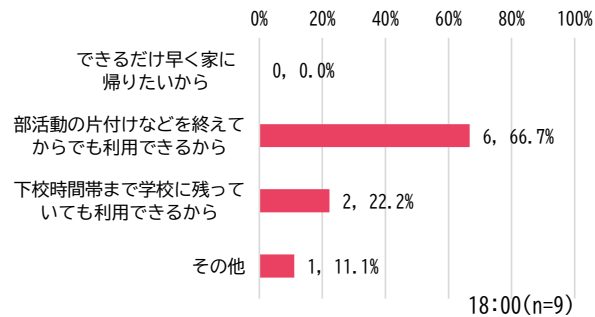
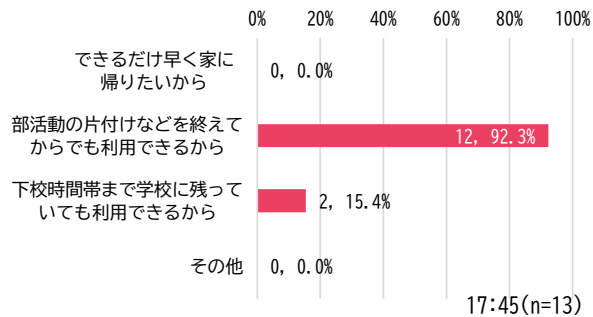


(11) 元町港の終バスの時間帯の選択理由について

- 部活動の片付けのニーズがあり、17：15～17：30が多い



(11) 元町港の終バスの時間帯の選択理由について



福祉まつりにおける バスの乗り方教室及びバス展示の実施

取組みの概要

- 令和6年11月3日に大島町社会福祉協議会が主催した福祉まつりにて、バスの乗り方教室及びバス展示を実施
- バスの乗り方教室では、専門家を招き、車内マナーやバリアフリーについてもレクチャー
- イベント中の10:30～14:00までの間に乗り方教室を2回実施、バス展示は常時

バスの乗り方教室	第1回	11:00～11:30	参加者	12名
	第2回	13:00～13:30	参加者	17名
バス展示	延参加者 180名			

令和7年度以降の 取り組み内容（素案）について

大島町地域公共交通活性化協議会

令和6年12月20日（金）

令和7年度の取り組み内容（素案）

実施主体	協議会事務局(大島町政策推進課)	協議会構成員
実施内容	・スクールバスと路線バス等の連携方策の検討（スクールバスを活用した交通ネットワークの検討等） ・体系的なモビリティ・マネジメントの実施 ・公共交通モニタの実施 ・各種調査・調整(大島高校直通バスに関する調整、タクシー活用に関する基礎情報整理)	[大島バス] ・バスの乗り方教室の実施 ・大島高校直通バスの運行に関する検討 [タクシー協会] ・タクシーを活用した岡田港以东の移動手段確保に向けた実証実験 [観光協会] ・公共交通利用の促進につながる広報活動 [全構成員共通] ・町内イベント参加時の公共交通の積極的な利用や参加メンバーへの利用呼びかけ
活用財源	・一般財源 ・国補助制度（例）共創モデル実証運行事業（国土交通省）、地域公共交通計画等策定事業（国土交通省）	・各構成員の自主財源 ・関係省庁・団体の補助金・助成金 ※適宜事務局が支援

素案に関して、下記ご意見いただきたい。

- ・各構成員で検討している事業のなかで本計画と連携を図れるもの
- ・取り組み内容に関するご質問・ご意見・ご提案

令和7年度の取り組み内容(素案)

■スクールバスと路線バス等の連携方策の検討

- スクールバス車両と路線バスの連携
⇒スクールバスの回送便(子どもが利用していない便)を活用した移動手段提供
- 実際の利用状況等を把握し、活用の方方向性を検討

■体系的なモビリティ・マネジメントの実施

- バスの乗り方教室をはじめ、公共交通利用促進につながる取組みをパッケージとして整理
※単発イベントではなく、連続性をもった取組みとしての企画

■公共交通モニタの実施

- 公共交通を利用してサービス内容を評価・発信

令和7年度の取り組み内容（素案）

■タクシーを活用した岡田港以東の移動手段確保に向けた実証実験

- バス利用の少ない時間帯をバスではなくタクシーで代替
- 令和7年度の観光閑散期の実証実験実施に向けて調整

■公共交通利用の促進につながる広報活動

- タクシーの相乗り利用での観光周遊
- 電動キックボードと公共交通を組み合わせた周遊のPR

■公共交通の積極的な利用

- 各団体での公共交通の利用を促進
- 協議会メンバーで公共交通を実際に利用する「現地調査」の実施